



たけ こ せいちょう 竹の子はなぜ成長がはやいの

かくふし うえ せいちょうてん はや 各節の上に成長点があるので早くのびる

たけ ノコは節と節の間がのびます。各節の上に成長点があるので、細胞の数がどんどんふえ、とても早いスピードで成長できるのです。若い竹の子は一日に1メートル近くものびます。

せいちょう ねん 成長は1年でとまる

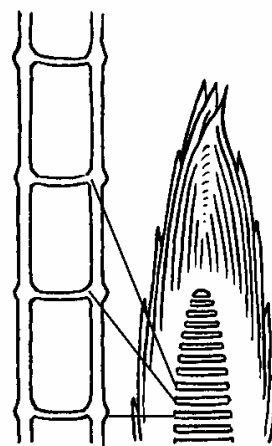
たけ せ せいちょう まいとし ふと おも ひと
竹の背たけはのびきると、あとは成長しません。毎年、のびたり太ったりすると思う人が
あお ちしょうぶ せいちょう は つく えいようぶん
多いかもしれませんが、のびきった地上部は、もう成長しません。葉が作った栄養分は、す
べて地下茎に送ってたくわえ、次のたけノコの成長のために使います。

えいよう ちかけい 栄養は地下茎からくる

たけ せいちょう ひつよう えいよう ちか ちかけい
竹の成長に必要な栄養は地下でつながった地下茎にたくわえられています。チューリップ
きゅうこん は くき はな おな せいちょう ひつよう ようぶん つく おお
の球根が葉や茎をのばし、花をつけるのと同じです。成長に必要な養分を作りながら大きくなるのではないのです。

くさ き 草か木か

たけ くさ き
竹は草でしょうか、木でしょうか。ふつつ、草といっているのは、
ふゆ ちじょう で もっか
は、冬に地上に出ているものが枯れてしまい、くきが木化せず、
どうまわ せいちょう ちじょうぶ ふゆが
胴回りが成長しないものをいいます。地上部が冬枯れなくて、く
き ねんねんおお き せいちょう ねんりん
きが年々大きくなるものを木といいます。木は成長のあとが年輪
のこ たけ き くさ たけ ねん
として残ります。竹は木とも草ともはっきりしません。竹は1年
せいちょう ねんりん
で成長をやめますので、年輪はありません。（監修・中山 周平）



節と節の間がのびる

